

計画することの難しさ 学童保育の現実

代

活動先：NPO 法人 生活支援センター わたぼうし

クラス：末盛 慶 先生

1. 自分の成長と気づき

私はこれまでに、自ら計画し実行するということを経験したことがなかった。それゆえ、このサービスマーケティングの活動に参加したのだが、それは予想以上に大変で、難しいものであった。

私の活動先は学童保育であったため、子どもたちが楽しんで参加できる計画にしようと思い、クッキー作りと空の科学館へのお出かけを計画した。事前訪問のときに、計画書を持参するように職員さんから言われていたため、私たちなりに考えて計画書を作成した。しかし、私たちに計画書を作った経験があるはずもなく、結果はひどいものであった。職員さんからの指摘は多く、「こんなのは計画書とはいわない」とまで言われてしまった。私たちは計画することを甘く見ていたようだった。その後、計画書の書き直し、お出かけの保護者への案内、職員さんに配るレシピ説明等、書類をいくつも作成することになった。その度にメンバー同士で協力し、確認し合いながら作業をすすめていった。

活動の中で、書類を書くという作業がとても多かったように思う。前述したほかにも、毎日の活動記録、活動後の振り返り、報告書など本当にたくさんの書類を書いてきた。たくさん書いたことによって、文章を書く力はついたと感じる。

また、計画することは事前準備がとても重要だということも学んだ。クッキー作りであったら、タイムスケジュールはどうするのか、子どもたちにわかりやすく説明するにはどうしたら良いか、材料を分配する時には子どもたちにやってもらうのか、こちらが準備しておくのか、クッキーを焼いている間は何をするのかなど、考えておかなければならないことはたくさんあった。私たちなりに本番を想像し、リハーサルも行ったうえで、準備を進めたのだが、いざ本番になると準備不足なことがいくつも出てきてしまった。そのときは職員さんがフォローをしてくださったが、私たちには大きな反省点となった。

そこで感じたのが、状況に応じて対応を変えなければならないということと、子どもたちについての理解が足りなかったことということである。私たちは予想外のことが起きるとどうしたらよいかわからず、立ち往生してしまっていた。職員さんのように、臨機応変に動けるようにならなければいけないと学んだ。また、私たちが子どもたちと関わった時間が数日だったため、子どもたちの考えや行動について理解できていなかったことも準備不足の原因といえる。活動前にボランティアとして子どもたちの様子を知っておくことも必要だったと感じる。

また、サービスマーケティングの活動を通して学んだことは、自ら積極的に行動することの大切さである。初めてのことでばかりで控えめになりがちだが、職員さんたちは私たちの意見を重要視してくださるので、発言していかなければとてももったいないと感じた。計画をよりよいものにするためには自分たちの意見を言うことも必要であるし、なにより早め

に行動することが、計画を改善するために必要なことである。

2. 活動を通して見えてきた社会問題についての考察・提案

活動を通して見えてきた問題として、学童保育の現場の環境が良いとはいえないということである。子どもたちの人数に対して敷地面積が狭く、それを改善することも容易ではない。なぜこんなにも学童保育所が子どもたちであふれるのか。それは学童保育所の数に原因がある。私が活動したわたぼうしは、半田市内唯一の NPO の学童保育である。NPO の学童保育所が非常に少ないということが、半田市の問題といえる。そのため、一つの学童保育所に子どもたちがあふれ、生活する環境が悪くなるという連鎖が起こってしまうのである。

これを改善するには、NPO そのものの認知度を上げる必要があると考える。私自身今回のサービスマーケティングの活動があって初めて NPO の存在を知った。もっと、新聞やテレビなどのメディアに多く登場することが必要だと考える。そして、新しく NPO を立ち上げる人材が現れてくれることを願う。

また、国や県からの助成金の額を増やすことも重要である。最近、中学校修了までの子ども一人につき、月額 1 万 3 千円支給するといった子ども手当という政策を国は始めている。日本の将来を考え、児童に対してかなり力を入れてきているように感じる。そのため、今後、学童保育所への資金援助も期待できるのではないだろうか。

2010 年 8 月 25 日（水）企画 ▶ 空の科学館への外出



目的：目的地まで歩いて集団行動をすることで、社会性を身につける。